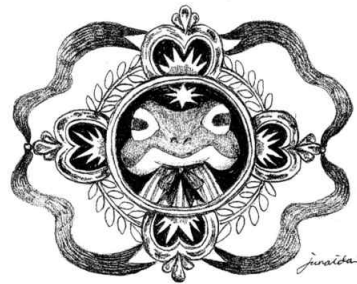


歌壇 俳壇



〈日曜日のブローチ 26〉 junaida

小林貴子選

落鮎の卵だらけの鰯料理

すんと秋が来てもうすぐ卒寿か

(前橋市) 荻原 葉月

(所沢市) 磯崎美津子

(鎌ヶ谷市) 海野 公生

(横浜市) 倉田 幹夫

(東かがわ市) 桑島 正樹

(東京都杉並区) 阪本絵理子

(横浜市) 大久保透美

(高岡市) 新井 久男

(兵庫県太子町) 一寸木詩郷

(立川市) 松尾 軍治

恋歌と知りて切なき虫の声

(高岡市) 新井 久男

(兵庫県太子町) 一寸木詩郷

(立川市) 松尾 軍治

テキトーに墓みて帰る秋彼岸

(立川市) 松尾 軍治

【評】一句目、鰯に掛かった秋鮎をさっそく賞味するが、卵の多さに一縷の哀れを感じる。二句目、つぶやくように表現して実感が籠められた。三句目、黒板に書いたメニューは一際美味しそう。四句目、万年生きる亀は泳ぎ方にも不思議あり。

長谷川 權選

秋刀魚焼く日本の空にけむり満つ

妻の手にはつむ新米塩むすび

(仙台市) 柿坂 伸子

(日立市) 加藤 宙

(茨城県河内町) 吉村 巖

(長岡市) 柳村 光寛

(岐阜県掛妻川町) 野原 武

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

(埼玉県嵐山町) 田端 栄子

一は燕二は蝶三の鷹渡る

(津市) 中山 道治

(神奈川県大井町) 新井たか志

(伊丹市) 保理江順子

【評】一席。まさに日本！ もう失われてしまった日本かもしれない。二席。新米のおにぎりが喜んでいるのだ。前途多難なれど。三席。漠然たる恍惚と不安と。マラーの五番のような。十句目。揺り鉢とともに年老いてゆく。楽しからずや。

大串 章選

夕焼は天の微笑み銀洗ふ

爽やかや雲の形の変はりたる

(前橋市) 山本 和裕

(玉野市) 北村 和枝

(北九州市) 野崎 仁

(いわき市) 佐藤 朱夏

(川西市) 糸賀 千代

(京都市) 室 達朗

(筑紫野市) 二宮 正博

(東京都世田谷区) 百瀬 俊夫

(多摩市) 金井 緑

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

秋深し一人暮らしの独り言

(東京都世田谷区) 百瀬 俊夫

(多摩市) 金井 緑

(東京都世田谷区) 石川 昇

山畑は家から一里蕎麦の花

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

(東京都世田谷区) 石川 昇

うたをよむ 「選者とともに」の特選句

「朝日俳壇の選者とともに」という読者参加の催しが、9月23日の秋分の日に東京都内の朝日カルチャーセンター新宿教室で開かれた。参加者は、会場とオンラインを合わせて59人。1人2句まで出句してもらい、4人の選者がそれぞれ特選5句と入選10句を公開で選出した。

長谷川權さんの特選1席は「恐竜の時代はさらに天高し 栃木県壬生町・あらゐひとしさん」。長谷川さんは「巨大な恐竜が天に向かって首を伸ばしている。

壮大な天が想像される」と、その雄大さを評価した。この句は、大串章さんと小林貴子さんが入選とした。

大串さんの特選1席は「秋ふかし鶯の店よりコルトレーン 川崎市・鈴木茂さん」。大串さんの評は「ジャズ喫茶を思い浮かべた。『秋ふかし』で切れが生まれることで、いろんな思いがわき上がってくる」。この句は、高山れおなさんと小林さんが入選とした。

高山さんの特選1席は「へためらわす天。牛。駆除をと地方版 戸田市・峰奥厚子さん。『天牛』とはカミキリムシ。高山さんは「こういふことを俳句にするのは珍しいし、面白い。中七は字余りだが、これは動かし方がない」と話した。峰奥さんは後日、朝日俳壇に「秋分の日の特選に酔ひにけり」と投句してくれた。

小林さんの特選1席は「月涼し乾くまで待つ青インク 横浜市・秋野晃枝さん」。小林さんは「上五に季語を置く、最も伝統的で基本的な型を生かした俳句。刹那をうまく詠われた」と評価した。この句は、長谷川さんと高山さんが入選句に選んだ。

伊藤伊那男句集「狐福」 「銀漢」創刊主宰の第4句集。「初夢の妻に長生きなどを託ぶ」「老人に浮力ありけり麦を踏む」「浮沈とふ今浮の方か衣被」(北辰舎銀漢叢書・3300円)

なつはづき句集「人魚のころ」 第2句集。「蛇いちご母をまつすぐ見られぬ日」「新涼や光を舐める猫の舌」。「あとがき」に「届く俳句が作りたい」。(朔出版・2640円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき

高山れおな選

無月 いくさが時間を食べている

どう見ても悪女のまつげ彼岸花

(松本市) 田中 薫

(所沢市) 堀 正幸

(松山市) 正岡 唯真

(四日市市) 沖 節代

(国立志) 加藤 正文

(相模原市) 鹿野加代子

(奈良市) 藤岡 道子

(東京都足立区) 高木 秋尾

(松山市) 中矢 尚

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

芋虫を手に乗せる子に育ちけり

(奈良市) 藤岡 道子

(東京都足立区) 高木 秋尾

(松山市) 中矢 尚

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

(稲城市) 日原 正彦

【評】第1句。「天の微笑み」が大らかで和やか。畑仕事を終えた充足感が窺われる。第2句。いよいよ秋到来。空には入道雲や峰雲に替わり罎雲や罎雲が白白と棚引いている。第3句。正にその通り。大花野を吹き抜けた風は二度と戻ってこない。

富澤赤黄男の『黙示』の句境を彷彿。どこか呆然と立ち尽くすような感じがする。堀さん。女性観もまつげ観も古い、のではないか。しかし、気持ちだけはわかります。油さん。それぞれの案山子への思い入れが愉快だ。

【評】田中さん。富澤赤黄男の『黙示』の句境を彷彿。どこか呆然と立ち尽くすような感じがする。堀さん。女性観もまつげ観も古い、のではないか。しかし、気持ちだけはわかります。油さん。それぞれの案山子への思い入れが愉快だ。